



シアバターの旅①

中小企業診断士／税理士 樫川 岳男

突然ですが「シアバター」をご存知でしょうか。女性には馴染みがあるかもしれませんが、男性は知らない方がほとんどなのではないでしょうか。

「シアバター」とは、西アフリカ地域に自生するシアという名前の木の実から採れる天然の植物性オイルのことです。昔から食用、髪の毛の保湿、スキンケア、傷や火傷の治療薬などの幅広い用途に使われおり、現地では新生児からお年寄りまですべての世代の人々が愛用しているものです。ロレアルやザ・ボディショップ（後にロレアルが買収）といった欧州の化粧品会社がその効能に着目し、製品化したことで、その後において世界中で広く知れ渡ることになったと言われています。今では、日本でも多くの小売店がシアバターを使った商品を扱っていますが、10年前はほとんどなかったと記憶しています。

私は平成12年2月からの3年間、このシアの木が多く自生している国の一つである西アフリカのガーナ共和国に駐在し、青年海外協力隊の後方支援などの国際協力や在留邦人の安全対策に関連する業務に携わりました。その現地駐在期間中に日本から赴任して2年間活動し、無事に任期を終えた青年海外協力隊員が帰国後に始めたビジネスが、このシアバターを扱う小売業です。

店主の女性は、同国北部のある村において村落開発普及員として女性住民の生活向上を

目的とした活動に取り組み、住民から全面的に信頼されるほどの良好な関係を築き上げました。帰国後も彼らのために何かしたいと考え、シアバターを使った保湿クリームを日本に直輸入することを決意しました。その際には、生産者である村の女性グループの手に適正な代金が渡るように、フェアトレード（注）の仕組みを構築したのです。

（次号へ続く）

（注） フェアトレードとは、発展途上国の農産物や雑貨などを、適正な価格で継続的に輸入・消費する取り組み。低賃金労働を強いられる傾向のある発展途上国で雇用を創出し、発展途上国の貧困解消や経済的自立を促すねらいがある。日本では「公正な貿易」、「オルタナティブ・トレード」などとも呼ばれる（ウィキペディアより）。



協同組合開成総合研究所理事